

令和6年度 S特選コース

第1回 入学試験問題 (2月1日 午後)

国語 (50分)

注意

- 1 この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 問題用紙および解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 4 字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「」「」などの記号を含んだ字数として解答すること。
- 5 印刷がわからない場合は申し出ること。
- 6 試験終了の合図でやめること。

東京都立大学等々力中学校

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一 次の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- 1、機織りの音が聞こえる。
- 2、子細について説明する。
- 3、人事の刷新をはかる。
- 4、長い間の苦役にたえる。
- 5、重要な役割を担う。
- 6、ノウドウ的に取り組む。
- 7、食材をチヨゾウ庫にしまう。
- 8、激しいトウロンが繰り広げられた。
- 9、カンレイとなっている事柄に従う。
- 10、水面につり糸をタらす。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学五年生の時田秀美は、他の子供と同じような価値観を植えつけたくないという教育方針の母親と、秀美が困ったときには何かと相談に乗ってくれる祖父と三人で暮らしている。転校したばかりの学校で、秀美は事あるごとに奇異な行動をとり、担任である奥村をつんざりさせていた。

算数の時間、最初の挨拶が終わると、奥村は、定規と分度器を出すように言った。教室じゅうがざわめいていた。そして、それに紛れるように、奥村が、赤間ひろ子の席に近付いた。彼は、自分のポケットから、小さな包みを出して、ひろ子の机の上に置いた。ひろ子は、頬を真っ赤に染めて、奥村を見た。

「赤間は、これを使いなさい」

秀美は、その言葉の意味が呑み込めずに、隠れて行なわれた二人のやり取りを横目で見ていた。

「こら、時田、何、よそ見してる」

秀美は、うんざりしたように、前を見詰めた。教壇きょうだんに立っている奥村は、いつもの憎々しい表情を浮かべ授業を始めた。

何か、変だ。秀美は、一瞬、教室の空気が、動きを止めたように感じたのだった。彼は、自分の周囲をきよろきよろと見渡した。そして、^①あ
る事に気付いて、ぎよつとしたのだった。子供たちは、皆、奥村と赤間ひろ子のやり取りを見ていたのだ。それも、はしゃいで雑音を作り、見て
いないというアリバイを作りながら、視線をひろ子の席に動かしていたのだ。

実は、秀美には、^②最初から不思議に思っていたことがあった。その疑問が、自分のみに湧わいて来るのだと確信していたので、口に出すことも
なかったのだ。謎が解けた。秀美は、気付いて愕然がくぜんとした。

赤間ひろ子は、いつも給食が終わる頃に、立ち上がって、こう言った。

「パン残した人は、受け付けまーす。あたしんちのお庭に来る鳥さんたちの餌えさに、ご協力お願いしまーす」

皆、給食の食器を戻す前に、ひろ子の席に来て、残したパンを置いて行くのだった。あつと言う間に、ひろ子の机の上は、パンの山になった。
秀美は、それを横目で見ながら、鳥の餌にするくらいなら、自分で食った方がましだと思っていた。第一、他人より食欲の旺盛おつせいな彼は、給食のパ
ン一個では、とても放課後まで持ちこたえられそうになかった。愛鳥週間でもあるまいし。秀美は、そう思い、ひろ子の机の上の大量のパンを恨
めし気に見た。彼女は、あらかじめ用意してあった紙袋に、丁寧にそのパンを入れていた。

しかし、あんなに沢山たかさんのパン。しかも毎日だ。いったい、ひろ子の家の庭には、どれだけ沢山の鳥がやって来ると言うのだろう。秀美は、不
思議でならなかった。

「ありがと、助かっちゃう。うちに来る鳥さんたち、すぐく食べるんだよ」

ひろ子は、パンを置いて行く子供たちに、そんなふうには礼を言っていた。ほんとに、鳥の餌えさ付けって大変、とでも言うように、肩をすくめなが
ら、袋の口を慎重に折り曲げていたひろ子。

秀美は、思わず片手で自分の額を軽くぶった。自分を問拔けだと心から反省した。あのパンは、鳥の餌などではなかったのだ。彼女の家の貴重
な食料だったのだ。定規を買えない程の貧しい家庭があることなど、彼には、それまで予想もつかなかった。自分の家の家計がかなり苦しいとい
うことは知っている。しかし、それは、生活費に事欠くという種類のものでは、決してない。笑いとばせる程度のものだ。しかし、赤間ひろ子の
家は、冗談の入る余地などないものだ。あの嫌味な奥村でさえ、こっそりと、ひろ子のために定規を渡さなくてはならない程、彼女の家は困窮こんきゆう
しているのだ。口に出せない程の貧しさが、あつたなんて。

それ以上に、秀美の心に **A** を与えたのは、そのことをクラス全員が知っていたことだ。鳥の餌だと言うひろ子の嘘うそを、黙認もくにんしていたとい
うことだ。皆、共犯で、秀美だけが、仲間外れにされていたのだ。彼は、唇を噛み締めた。誰を責めるのでもなく、^③自分を殴うってしまいたい思い

に駆られて、算数の授業どころではなかった。

「三角形を各自で書いてごらん」

奥村の声が、はるかかなたで聞こえているような気がした。

「そして、三つの角を分度器で計ってごらん」

秀美は、机に肘をつき、両手で顔を覆いながら、指の隙間をこっそりと開け、ひろ子を盗み見た。

「ほうら、すごいだろう。どの三角形も三つの角を足すと百八十度になる」

ひろ子は、感動したような表情を浮かべていた。どうして、そんなことに感動出来るんだ。秀美は自分の心が苛立つのを感じた。

あちこちから、どうしてなんだろうという素朴な驚きの声が洩れていた。(中略)

やがて、給食の時間が来た。いつもなら、真つ先に献立を調べに行く秀美だったが、今日は気分が重かった。しかし、食べ始めると、急に体は空腹を訴え始め、彼は、貪るように、食べ物をお口に運んだ。

ふと、パンをちぎる手が止まった。秀美は、そつと、ひろ子を見た。彼女は、行儀良くスープを啜っていた。彼は、それ以上、パンを食べるのを止めた。

食事が終わると、いつものように、ひろ子は、大きな声で言った。

「パンを残した人、うちの庭にやって来る鳥さんたちのために協力してね」

皆、例のごとく、残ったパンを、ひろ子の机の上に載せて行った。机の上に、パンの山が出来、ひろ子は、皆に、お礼を言いながら、持参した紙袋に、それを入れた。

「あの、赤間さん」

秀美は、おそろおそろ彼女に声をかけた。ひろ子は、怪訝そうな表情を浮かべ、何の用かと目で問いかけた。

「これ、ほくも、残しちゃったんで、きみんちの鳥に……」

秀美は、半分程残したパンを、ひろ子に差し出した。見る間に、ひろ子の顔が赤くなり、目は、Bを感じたかのように見開かれた。ひろ子は、ゆっくりと、秀美に向かって手を出したが、それは震えていた。秀美は、一刻も早くパンから手を離したいというように、彼女にパンを握らせた。しばらくの間、そのパンは、彼女の手の内にあった。秀美は、ほつとして、自分の食器を片付けようと立ち上がった。その瞬間である。ひろ子が、そのパンを秀美に投げつけたのは。

秀美は、最初、いったい何が起こったのか、まったく理解出来なかった。しかし、床に落ちてつぶれたパンを目にした途端、自分が、とんでもないことをしてしまったことに気付いた。慌てて、ひろ子の顔を見ると、彼女は、目に涙をなみなみとたたえ、秀美をにらみつけていた。

「ごめん……ぼく……」

ひろ子は、机につつ伏して大声で泣き始めた。秀美は、言葉を失って、床に落ちたパンを拾った。つぶれたパンには、ひろ子の指の跡が、くつきりと付き、^④彼女の気持を物語っていた。

秀美は、自分の背後から、音のない溜息ためいきが押し寄せて来るように感じて、思わず後ろを振り返った。そこには、いくつもの彼をとがめる目があった。彼は、パンを手にしたまま、Cの視線を受け止めた。子供たちは、無言で秀美をののしり、^⑤そうすることで、ようやく、彼を、この教室の仲間として受け入れたのであった。

秀美は、それまで味わったことのない感情を抱えて帰宅した。^⑥隆一郎は、モーツアルトを聴きながら釣り竿さおを磨いていたが、秀美の様子を見るなり、それを止めた。

「どうした。学校で、御不幸でもあったかな？」

秀美は、隆一郎の側に駆け寄り、畳に伏して泣き始めた。なんだか、ひどく悲しかった。同時に、いくらでも涙を流せるこの場所が、とても心地良く感じられた。

「ぼく、ひどいことしちゃったのかなあ？」

秀美は、隆一郎に、事の顛末てんまつを話した。その間じゆう隆一郎は、秀美の頭を撫なでていた。

「だから言っただろうが。おまえのやり方にも、ちいっとばかり、問題があるって」

「だけど、ぼく、赤間さんを心配したんだ。皆のするように、あの子の手助けをしようとしただけなんだ。^⑦昨日、おじいちゃんの言ってた同情ってことじゃないよ。本当に、そうしなければって気持になったんだ」

「ふむ」

隆一郎は、再び釣り竿を点検し始めた。

「プライドって言葉は知ってるだろう？」

「うん」

「おまえは、赤間さんって子のプライドを粉々にしちゃったんだなあ。誰もが、その子に同情してた。でも、おまえは、それに気付かなかった。それで、その子の気持が、どれだけ救われていたことか。そして、他の子たちが、おまえに、それを教えないことで、どれだけ、赤間さんを助けていたことか。でも、自分で、気付いちゃったんだなあ」

秀美は、涙を拭ふきながら起き上がった。

「でも、そんなつもりじゃなかったんだよ。赤間さんのプライドをつぶそうなんて、思いもよらなかったんだよ」

「そんなつもりじゃないのが一番悪い」

隆一郎は、不貞腐れたように足を投げ出す秀美を、おもしろそうに見詰めた。

「悪意を持つのは、その悪意を自覚したからだ。それは、自覚して、失くすことも出来る。けどね、そんなつもりでなくやってしまうのは、**D** だということだよ。賢くなかったな、今回は。おじいちゃんの言ってること解るか」

秀美は、負けを認めたかのように頷いた。

(山田 詠美「眠れる分度器」より)

(注1) 「愕然」 …… 意外な事実を知って、ひどく驚く様子。

(注2) 「隆一郎」 …… 秀美の祖父。

(注3) 「顛末」 …… 事の初めから終わりまでの詳しい事情。

(注4) 「昨日、おじいちゃんの言ってた同情」 …… 前日、秀美がおじいちゃんから「同情を覚えると、優しい顔付になる。ただし、それは本当の優しさではなく一種のお芝居だ。同情仮面は便利だぞ」と言われたことを指す。

問 一、——線①「ある事に気付いて、ぎょっとした」とありますが、「ある事」とはどのようなことですか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って指定された字数でそれぞれ答えなさい。

教室じゅうがざわめいていたのは、**1、十五字程度** ところを見ていながら、それを見ていないという

3、二十字以内 からだとということ。

2、八字以内

ために、

問 二、——線②「最初から不思議に思っていたこと」とありますが、それはどのようなことですか。それが分かる箇所を文章中からひと続きの三文で探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問 三、

A

C

 にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--------|--------------------------|------|
| ア、A—衝撃 | B—羞恥 <small>しゆうち</small> | C—同情 |
| イ、A—衝撃 | B—恐怖 | C—非難 |
| ウ、A—疑問 | B—恐怖 | C—同情 |
| エ、A—疑問 | B—衝撃 | C—非難 |

問 四、——線③「自分を殴ってしまいたい思い」とありますが、このときの秀美自身に対する感情を具体的に表している一文を文章中から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問 五、——線④「彼女の気持を物語っていた」について、次の各問いに答えなさい。

1、この時の「彼女」の「気持」が表われている具体的な行動を文章中から十一字と二十四字で二つ探し、それぞれ抜き出して答えなさい。
ただし、二十四字のものは、最初と最後の三字を抜き出して答えること。

2、「彼女」が1で答えたような「気持」になったのはなぜだと考えられますか。その理由を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から八字で探し、抜き出して答えなさい。

秀美によって

八字

 されたから。

問六、——線⑤「そうすること、ようやく、彼を、この教室の仲間として受け入れた」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、子供たちは、秀美がひろ子に同情してパンの残りを渡したことで、ひろ子の家庭の事情を理解する仲間として秀美を歓迎したということ。

イ、子供たちは、秀美が事情も分らずパンの残りをひろ子に渡したことで、ひろ子の気持ちを救ってくれる存在として秀美に感謝をしたということ。

ウ、子供たちは、事情も分らずパンの残りをひろ子に渡した秀美を責めることで、ひろ子の秘密を秀美とも共有すべきだと決めたということ。

エ、子供たちは、ひろ子に同情してパンの残りを渡した秀美を責めることで、ひろ子の家庭の事情を知る者同士として秀美を認めたということ。

問七、Dにあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、天然 イ、傲慢ごうまん ウ、鈍感どんかん エ、敏感

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、設問の都合上、一部省略した箇所があります。

【文章Ⅰ】

コープの法則

「同じ系統の中では、大きなサイズの種は進化の過程で、より遅れて出現する傾向がある」

【文章Ⅱ】

大きいということは、それだけ環境に左右されにくく、自立性を保っていられるという利点がある。動物は体の表面を通して環境に接している。サイズが大きいほど体積あたりの表面積は小さくなるので、表面を通しての環境の影響を受けにくくなると考えられる。

このよい例が体温である。サイズの大きいものほど恒温性を保ちやすい。これは、茶碗のお湯はすぐさめるが、風呂のお湯は、暖めるにも時間がかかるけれど、さめるのもゆっくりだ、というのと①同じ原理である。体積は長さの三乗に比例するが、表面積は長さの二乗に比例する。だから（表面積／体積）は、長さ（サイズ）が A なるのに反比例して B になっていく。C 風呂の方が、寒い外気に接する面積が茶碗と

比べて相対的に D ことになる。だからさめにくいのである。このことから類推すれば、サイズの大きい動物ほど環境の急激な温度変化に耐えることができるだろう。

体温が一定であるということには、もっと大きな利点がある。体内で起こっている化学反応の速度は温度によって変わり、温度が高い方が速度は速くなる。筋肉の収縮ももちろん化学反応にもとづいているから、収縮速度は温度によって違ってくる。だから、さつきと同じタイミングで腕を伸ばしても、そのとき前より体温が下がっていたら獲物を逃してしまう。これは、はなはだ都合が悪い。

E 恒温性の利点の一つは恒時性^④にある。温度によって時計の進み方が変わるのでは、正確な運動や細かい制御は困難だろう。もう一つの利点は高温性である。鳥類や哺乳類^⑤では、体温はかなり高いところで一定になっている。体温を高く保つことは、速い運動を可能にする。高温性と恒時性。これらにより、安定した F 速い運動が保証される。こうした利点があるからこそ、相当なエネルギー的な代価を支払っても、鳥類や哺乳類は体温を高く一定に保っているのである。恒温動物では、体重あたりにして比べれば、サイズの大きいものほど恒温性を保つのに必要なエネルギーは少なくてすむし、変温動物といわれているものでも、サイズの大きいものは、かなり体温を一定に保っておける。恐竜が恒温動物だったか変温動物だったかに関しては議論のあるところだが、何十トンもある巨大なサイズの恐竜は、たとえ鳥や哺乳類のような体温調節機構をもっていないくとも、体温はほとんど一定だったろうと想像している人もいる。

サイズの大きいものほど乾燥にも強い。表面から逃げていく水分の量が、②相対的に少ないからである。ラクダは砂漠の船と呼ばれるが、大き

な体を長い毛で覆うことにより、体表からの水分と熱の出入りをおさえ、砂漠の生活に耐えている。

サイズの大きい方が飢えにも強い。飢餓状態では、体に蓄えられた脂肪などを使いながらのいでいくのだが、体重が半分減少した時点で、多くの動物が耐えきれずに死んでしまう。体重あたりのエネルギー消費量はサイズの大きいものほど少ないので、大きいものはより長期間の飢餓に耐えられることになる。もちろん、大きいものは歩く速度も、歩き回れる範囲も大きいので、その分、よい環境を求めて移動でき、その点でも飢餓や乾燥、寒冷や酷暑という環境の **G** に対処する能力が高いといえる。

サイズが大きいということは、一般的にいつて、余裕があるということである。動物が生きていくうえで必要な基本的な機能の種類は、サイズが変わっても、ほとんど変わらないだろう。ところがサイズの大きいものほど細胞の数は多いのだから、余裕の分を、新しい機能の開発にまわすこともできるだろう。細胞そのものの代謝にしても、大きいものでは代謝率が低いので、細胞のレベルで見ても能力に余裕があると考えてもいいだろう。だから、大きければたぶん、知能が発達する余裕もできてくるし、また大きければ長生きなので、じっくり学ぶこともできるだろう。頭がいいといわれているヒトやイルカは、サイズの大きな生き物である。

小さいものは体の割には大飯食らいである。アメリカムシクイという小さな鳥は、なんと三〇秒に一回の割で虫を捕まえて食べる。これでは安楽椅子(いす)に座(す)って、よしなしごと(注5)を考(考)えるという生活は、とてもできそうにない。つまり、大きいものほど食事にあてる時間は少なくてすみ、時間的にも余裕があるということだ。

体が大きいということは、それだけ強いことを意味するだろう。足の速さや体重で圧倒すれば、捕食者にも負けないし、食物を手に入れる際にも優位に立てるだろう。違う種の間での競争において、大きいものの方が強いことは、いろいろな場面で知られており、たとえば、アフリカのサバンナの水場での観察によると、ゾウが水を飲み終わるまで、ほかの動物はおとなしく待っているそうだ。水場での順位はゾウ、サイ、カバ、シマウマ……と大きい順になっている。また、同じ種内での比較でも、大きい雄が雌を独占(注6)してハーレムをつくる。^③アザラシの例に典型的に見られるように、大きいものは雄同士(注7)の争いにも打ち勝って、より多くの子孫を残せる可能性が高いだろう。

(中略)

さて、ここまでの話だけ聞けば、大きいことはいいいことで、世の中にはサイズの大きい動物しかなくなってしまうように思えるが、現実はそのうちではない。小さいものも、ちゃんと生きている。それでは今までの議論に、どこがおかしなところがあるのだろうか。

コープの法則の再検討が行われたのは、二〇年ほど前のことである。確かに系統をたどってみると、進化の過程で、大きいものは遅れて出現することが多い。^④コープの法則は正しいのだが、その理由は、大きいものがいつも優位だからというわけではなく、進化は小さいものからスタートするからだ、とスタンレー(注7)はアンモナイトの化石を詳細に検討して結論を出した。新しい系統の祖先となるものは、多くの場合サイズの小さい動物である。哺乳類の場合もそうだったし、^(注8)霊長類の場合でも、リスほどのサイズのものからスタートした。

こうして、小さいものからはじまったその系統は、時間とともにさまざまな動物を生みだしていく。サイズもいろいろと変化するが、もともとが小さかったのだから、多様性が増すにつれ、サイズの大きいものが後から出現するのは当然だ。だから大きいものだけに注目すればコープの法則が成り立つが、それは多様性が増したことの一面を見ているにすぎない。ある時代に生きていたアンモナイトの化石のサイズの分布図を描き、このような図をいろいろな時代について作って比べると、確かに時代とともに最大のサイズは大きくなるが、サイズ分布の中央値は、時代が変わってもほとんど変化していない。

コープの法則の述べている事実は正しい。しかし、この事実だけを聞くと「定^(注9)向進化説」や「大きいことはいいことだ説」という誤った考えに陥りやすい。科学^(注5)というものは自然の一面だけを切りとってきて考えるという性癖^(注10)をもっている。一面だけの事実が指し示す方向が、必ずしも正しい方向ではないことを、いつも忘れないようにしたいものだ。

(本川達雄「ゾウの時間ネズミの時間―サイズの生物学」より)

- (注1) 「恒温性」 …… 温度が一定であること。
- (注2) 「三乗」 …… 同一の数を三回掛け合わせる。
- (注3) 「二乗」 …… 同一の数を二回掛け合わせる。
- (注4) 「恒時性」 …… つねに定まっていて変わらないこと。
- (注5) 「よしなしごと」 …… つまらないこと。とりとめもないこと。
- (注6) 「ハーレム」 …… ここでは、一匹の雄が複数の雌を付き従わせること。
- (注7) 「スタンレー」 …… アメリカの生物学者。
- (注8) 「霊長類」 …… 人間を含めたサル仲間のこと。
- (注9) 「定^(注9)向進化説」 …… 生物は、特定の方向に進化しようとする性質が本来備わっているとする説。

問一、——線①「同じ原理」とありますが、何と何が「同じ原理」なのですか。それを説明したものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、サイズの大きい動物ほど環境の影響を受けやすい。このよい例が体温で、風呂のお湯は暖めるのに時間がかかるが、さめるのもゆっくりであることと同じ原理である。

イ、サイズの大きい動物ほど環境の影響を受けやすい。このよい例が体温で、茶碗のお湯はすぐさめるが、暖まるのも早いことと同じ原理である。

ウ、サイズの大きい動物ほど環境の影響を受けにくい。このよい例が体温で、環境の急激な温度変化には対応できないことと同じ原理である。

エ、サイズの大きい動物ほど環境の影響を受けにくい。このよい例が体温で、茶碗のお湯より風呂のお湯の方がさめるのもゆっくりであることと同じ原理である。

問二、

A

D

 に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| ア、A—大きく | B—小さく | C—大きい | D—小さい |
| イ、A—大きく | B—小さく | C—小さい | D—大きい |
| ウ、A—小さく | B—大きく | C—大きい | D—小さい |
| エ、A—小さく | B—大きく | C—小さい | D—大きい |

問三、

E

 にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、だから イ、つまり ウ、なぜなら エ、たとえば

問四、

F

・

G

 にあてはまる言葉を【文章Ⅱ】の中から

F

 は三字、

G

 は二字で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

問 五、——線②「相対的に少ない」とありますが、何と比べて「相対的に少ない」のですか。【文章Ⅱ】の中から九字で探し、抜き出して答えなさい。

問 六、——線③「アザラシの例に典型的に見られる」とありますが、どういうことが「典型的に見られる」のですか。【文章Ⅱ】の——線③より前から十五字以内で探し、抜き出して答えなさい。

問 七、——線④「コープの法則は正しい」とありますが、どういう点で正しいと言えるのですか。【文章Ⅱ】の中の言葉を使って、三十五字以上四十五字以内で答えなさい。ただし、「大きい」・「小さい」という言葉を必ず使うこと。

問 八、——線⑤「科学というものは自然の一面だけを切りとってきて考えるという性癖をもっている」とありますが、このことに対する筆者の考えとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、一面だけを切り取って考え、証明することによって、普遍的な法則を発見できる。

イ、一面だけを切り取って考え、さらにその面を深く掘り下げて考える必要がある。

ウ、一面だけを切り取って考えるだけでなく、他の面を否定する必要がある。

エ、一面だけを切り取って考えるだけでなく、他の面からも考える必要がある。

問 九、【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】の内容にあてはまるものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア、大きなサイズの種は、小さなサイズの種よりつねに優位な立場をとっている。

イ、小さなサイズの種は、食事時間が長く、大きなサイズの種に比べて余裕がない。

ウ、進化は、小さなものからつねに始まり、大きなものから始まることはない。

エ、コープの法則は、現代生物学にも通用する画期的な法則である。

オ、コープの法則は、進化の過程について一部分ではあてはまるが、全体にはあてはまらない。

カ、恒温動物も変温動物も、大きなサイズの種は、正確な運動や細かい制御を容易にできる。

四 中学二年生の生徒が、「自己発見と共生の旅」で福島を訪れるにあたり、現地の状況を調べ、いくつかの意見をまとめました。

次の文章は、【資料】から読み取れたことを文章にしたものです。生徒同士の会話もあわせて読み、あとの問いに答えなさい。

全体として八割弱が被災地での「防災意識の薄れ」を感じている結果となった。主な理由としては、「同規模の災害が起きていないこと」が挙げられる。「注意報や避難情報が頻繁で慣れてしまった」との回答も少なくないことから、「警報慣れ」している実態もつかえる。

生徒A——東日本大震災から十年以上経って、被災地の方たちにも、防災意識の変化は当然あったってことだよね。

生徒B——そりゃそうだよ。震災を経験していない層も、確実に増えているしね。

生徒C——【I】に関しては、「防災意識の薄れ」をどう感じるかで、両極端の結果が出ているね。

生徒D——逆に考えれば、この点には、両面あるってことだから、よく考えなければいけないことなのかも。

生徒E——【資料B】で「防災意識の薄れが【II】」のが「十八〜二十九歳」だったのは意外だったな。

生徒A——それって、【資料E】の【III】「事業」がうまく機能してるってことではないの？

生徒B——そうかな。その割に、県として充ててる金額は、他の項目に比べて少ないんじゃない？

生徒C——【資料F】の「震災遺構」も、その表れかもしれないな。【I】には欠かせないはずなのに、先行きは明るくないみたい。

生徒D——これじゃ、いくら「教育旅行復興」事業が軌道に乗っても、真の復興にはつながっていかないんじゃないのかな？

生徒E——震災遺構を【IV】と位置づけ、被災地に住む人に限らず、【V】を持つことがまず必要だと思う。

問一、【I】にあてはまる内容を【資料C】・【資料D】から探し、抜き出して答えなさい。

問二、【II】にあてはまる言葉を五字以内で考えて答えなさい。

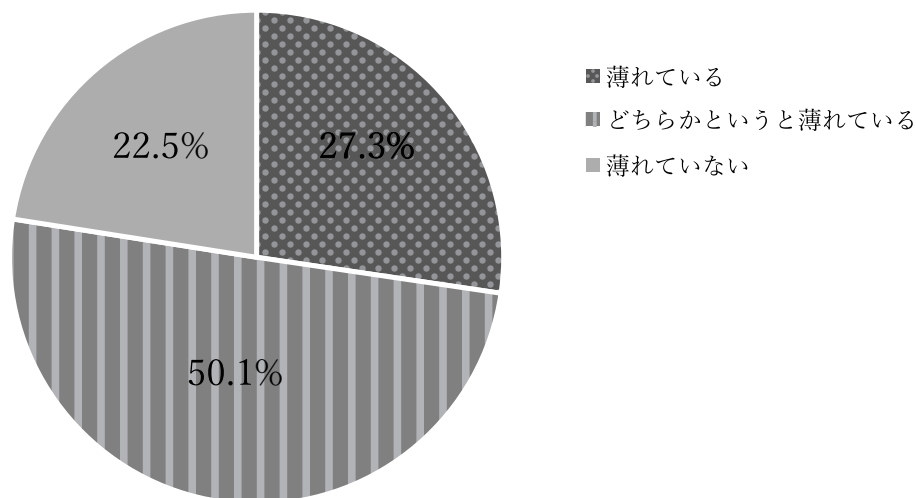
問三、【III】にあてはまる内容を【資料E】の中から探し、抜き出して答えなさい。

問四、【IV】にあてはまる言葉を【資料F】の中から七字で探し、抜き出して答えなさい。

問五、【V】にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

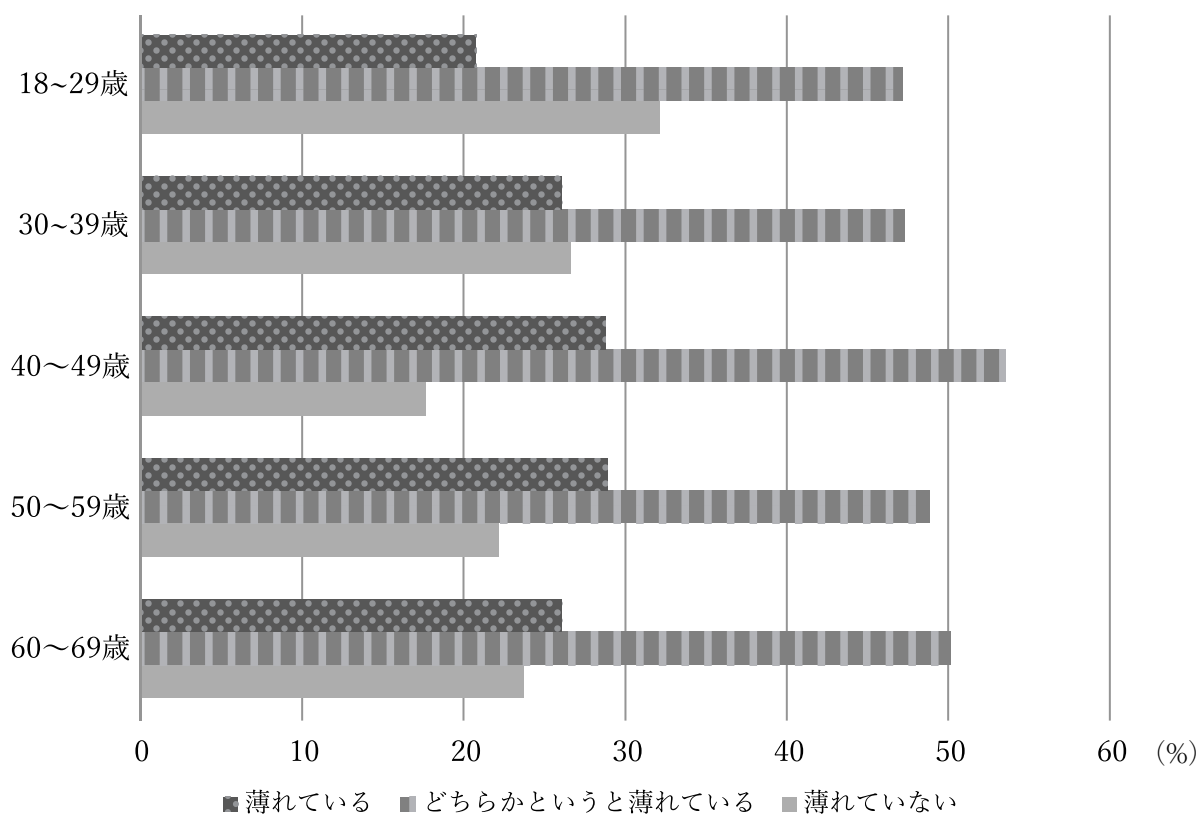
- ア、被害者意識 イ、加害者意識 ウ、当事者意識 エ、大人目線 オ、傍観者目線 カ、子ども目線

資料A 震災から12年。被災地の防災意識は薄れていると思いますか？



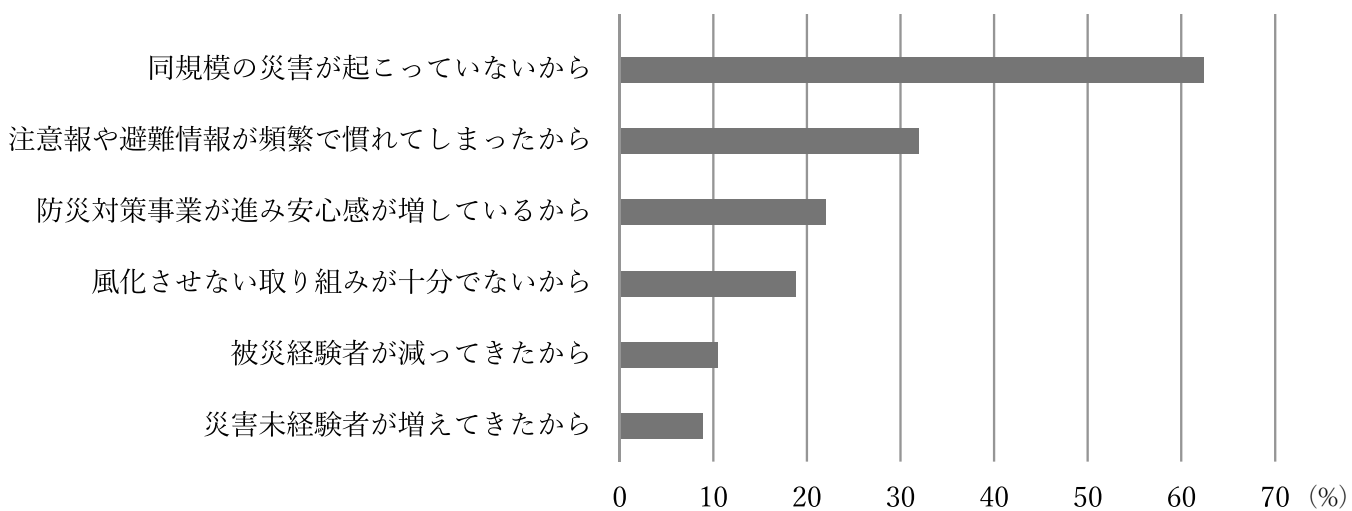
(出典：2023年2月17日～2月20日 岩手・福島・宮城在住の18～69歳 1500人を抽出、インターネットによるアンケート 応用地質株式会社より作成 単一回答)

資料B 防災意識について（資料Aの年代別データ）



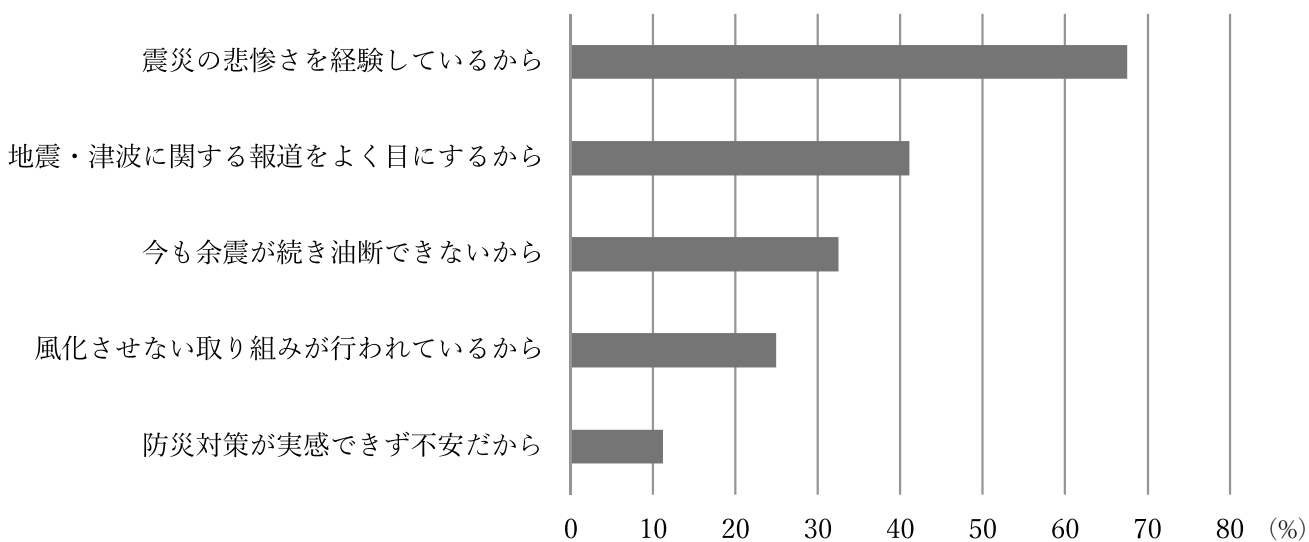
(出典：応用地質株式会社のアンケートより作成)

資料C 「薄れている」「どちらかというと薄れている」と感じる理由は何ですか？



(出典:応用地質株式会社のアナケートより作成 複数回答/1162回答)

資料D 「薄れていない」と感じる理由は何ですか？



(出典:応用地質株式会社のアナケートより作成 複数回答/338回答)

資料E 令和5年度 福島県風評・風化対策主要事業

◆県産品の販路回復・開拓（ブランド力の強化と販路の拡大）

＜拡充＞県産品風評風化対策事業	71,309千円
＜拡充＞ふくしま県産品再生支援事業	42,634千円
＜拡充＞「売れるデザイン」 ^(注1) イノベーション事業	17,282千円
＜新規＞福島ならではの農林水産物高付加価値化推進事業	135,745千円
＜拡充＞ ^(注2) 第三者認証GAP等取得促進事業 ^{そくしん}	299,894千円
＜継続＞ふくしまの園芸人育成・魅力発信事業	11,585千円
＜継続＞福島県水産物競争力強化支援事業	565,000千円

◆観光誘客の促進（来て、見て、実感できる多様な取組の推進）

＜拡充＞福島ゆかりのコンテンツ ^(注3) による地域活力創造事業	53,095千円
＜継続＞「来て。乗って。」絶景、只見線 ^{ただみ} 利活用事業	138,069千円
＜拡充＞ホープツーリズム運営・基盤整備事業	173,865千円
＜継続＞教育旅行復興事業	301,677千円
＜拡充＞福島インバウンド復興対策事業 ^(注4)	254,882千円
＜拡充＞海外風評払拭情報発信事業 ^{ふっしょく}	22,000千円
＜拡充＞ふくしまインフラツーリズム推進事業 ^(注5)	25,000千円

◆国内外への正確な情報発信（ふくしまの今と魅力の発信）

＜拡充＞チャレンジふくしま戦略的情報発信事業	438,683千円
＜拡充＞風評・風化対策強化事業	76,740千円
＜新規＞戦略的復興関連情報発信事業	42,940千円
＜拡充＞相双地域の魅力戦略的情報発信事業 ^(注6)	40,933千円
＜新規＞「転職なきふくしまぐらし。」推進事業	166,976千円
＜継続＞チャレンジふくしま消費者風評対策事業	145,142千円
＜拡充＞チャレンジふくしま世界への情報発信事業	53,086千円
＜拡充＞次世代へつなぐ震災伝承事業	11,419千円
＜拡充＞震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業	18,162千円

(注1) 「イノベーション」 ……新たな価値を生み出すこと。

(注2) 「第三者認証GAP」 ……第三者機関の審査により確認された農場に与えられる認証のこと。

(注3) 「コンテンツ」 ……教養や娯楽の情報の内容。

(注4) 「インバウンド」 ……外から中に入ってくること。

(注5) 「インフラツーリズム」 ……公共施設を観光すること。

(注6) 「相双地域」 ……福島県浜通りの中北部に位置し、南北に長い地域のこと。

(出典：福島県ホームページより作成 <http://www.pref.fukushima.lg.jp>)

資料F 震災遺構、長期維持に費用の課題 風化とコロナで来場減

東日本大震災の教訓を将来に受け継ぐ「震災遺構」が維持管理費の壁に直面している。国の支援制度はなく、管理する自治体は入館料や寄付金などで負担軽減を図るが、震災から10年がたち風化の影響は深刻だ。足元では新型コロナウイルスの感染拡大も影を落とし、社会全体によるサポート環境の充実が求められている。

校舎4階まで津波が到達した宮城県気仙沼向洋高旧校舎（気仙沼市）。窓ガラスのない建物に風が吹き込み、3階の教室に流されてきた車やがれきがそのまま残るなど津波の脅威を無言で物語る。2019年3月に「東日本大震災遺構・伝承館」として開館した。

20年度は目標を上回る約8万1千人が訪れたが、人件費や修繕費など施設の維持管理に年間約5500万円かかり、約1300万円は入館料などで賄えず市が負担した。市の担当者は「全国から修学旅行生が訪れる防災教育の拠点。長期的な運営のため、財政支援が必要だ」と訴える。

東日本大震災で被災した各地の震災遺構は、災害の教訓を後世に伝えて防災意識を高める地域の拠点だ。国は復興事業として13年に保存費用の支援を始め、これまでに9件の整備を支援したが、維持管理費は対象外のため自治体や運営団体が負担している。

岩手、宮城、福島の前被災3県で整備済みか今後整備を終える主な遺構17件のうち、7件が入館を既に有料にしているか今後有料化する方針。岩手県陸前高田市は今後オープンする気仙中など2カ所の内部見学について、ガイド同伴を条件とした上で案内料の支払いを求めることを決めた。

（中略）

風化に加え、新型コロナも深刻な影響を与える。伝承館は20年春に2カ月近く開館を諦め、同年4月から21年1月にかけての来場者数は前年同期比で6～7割減った。「大型連休中の休館が響いた」（佐藤克美館長）

関西大の永松伸吾教授（防災政策）は、遺構について「被災地以外からも『教訓を伝えるために残すべきだ』との声が上がった。国民全体の財産だ」と強調。自然災害の激甚化や南海トラフ巨大地震などの発生が懸念されるなか、防災意識を高める震災遺構は将来の災害で犠牲者を減らす事業だと指摘する。

その上で「維持費を自治体だけの問題にせず、社会全体で負担を分かち合うべきだ」と訴えている。

（出典：「日本経済新聞」2021年3月8日記事より抜粋）

四	三	二	一
五 四 三 二 一	九 八 七 六 五 四 三 二 一 <small>G F</small>	七 六 五 四 三 二 一 <small>2 1</small>	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

(受験生はこれより上段には記入しないこと)

四	三	二	一
問四 問三 問一	問八 問七 問六 問五 問一 問六 問五 問二 問一	問二 問三 問四	問一
7	7 45 (35) 15 10 10 10 10 11	8 20 10 10 10 10 11	15 15 8 20 10 10
問五 問二	問九 問四 問二 問四	F G	機織 (り) 子細 刷新 苦役 担 (う) う タ (らす) らす
7	7 45 (35) 15 10 10 10 10 11	8 20 10 10 10 10 11	15 15 8 20 10 10

注意事項

・解答は解答欄の枠内に濃くはっきりと記入して下さい。
・解答欄以外の部分には何も書かないで下さい。

第一回 中学校入学試験問題

〔国語〕

解答用紙

(2月1日午後)

氏名

受験番号

○	○	○	○
①	①	①	①
②	②	②	②
③	③	③	③
④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨

評価点